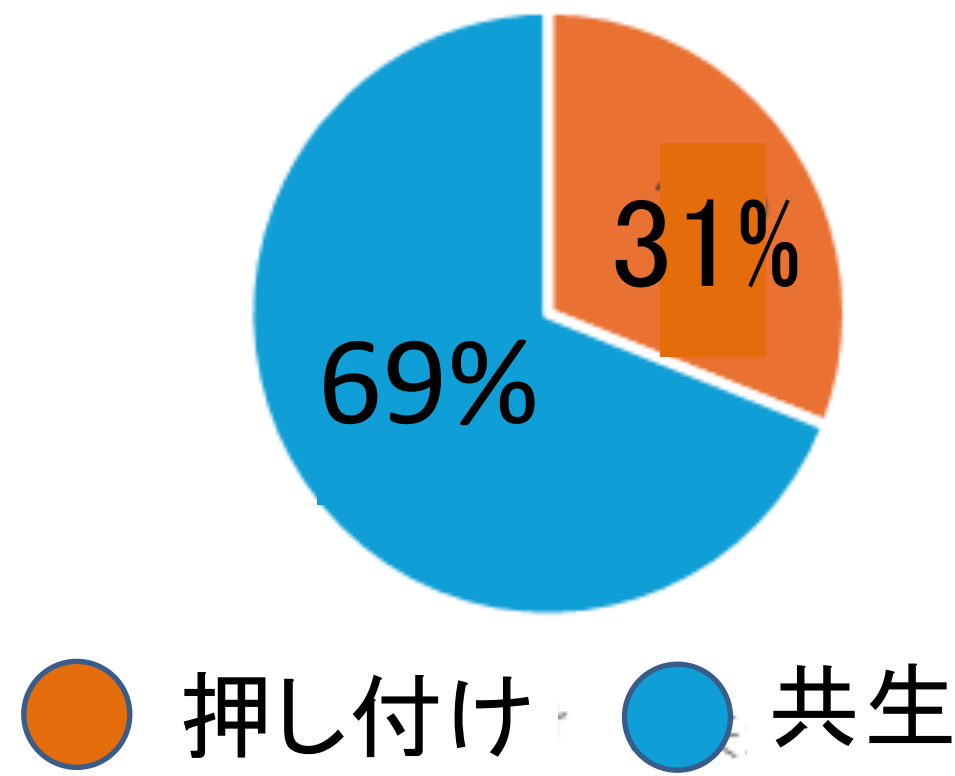


援助は共生？それ、洗脳だから！！

ほっかいどうはでっかいどう/嶋田晴行ゼミ

途上国への援助は共生？押し付け？



定義

- 援助: 社会的、経済的、人道的な目的で行われる支援全般
- 共生: 双方の主体的な意思決定によって互いのニーズを満たし、その関係が持続可能であること
- 押し付け: 主体性に欠け、一方的に価値観や都合を適応すること

個人による援助

共生

- 寄付先の透明性や活動内容を確認
- 金銭的な寄付
- フェアトレード製品の購入

押し付け

- 寄付先を確認していない
- 短絡的なSNS投稿
- 低品質な「モノ」の寄付

企業による援助

共生

事例: ユニクロの服寄付

- 現地ニーズに合わせて服を厳しく選別
- 現地の文化や宗教的制約の理解、対応
- 自立のための職業訓練活動
- 難民への雇用促進

押し付け

事例: ネピア「千のトイレプロジェクト」

- 多くのトイレが壊れたまま放置
- 衛生知識不足でトイレが十分に活用されず
- 現地ではトイレより給水施設を求めている

政府による援助

共生

事例: 日本からインドネシアへのODA

- 灌漑施設の整備援助で生活水準向上
- 技術・知識の移転
- 双方向的利益
- 地域開発

押し付け

事例: 中国のタイド援助

- 政治利用、経済依存
- ドナー国の利益追求で現地の意思が反映されにくい

共通する問題点

- 現地への無理解と解像度の低さ
- 与える側中心の一方的な関係
- 短期的な援助と長期的責任の欠如
- 援助による依存関係の固定化、助長

問題の原因

- 現地のニーズより援助側の都合を優先
- 無意識的な上下関係
- 短期的な成果の優先

結論

援助は「関係を紡ぐための行為」
援助主体を多元化し、対等で持続可能な関係を築く



参考文献

